



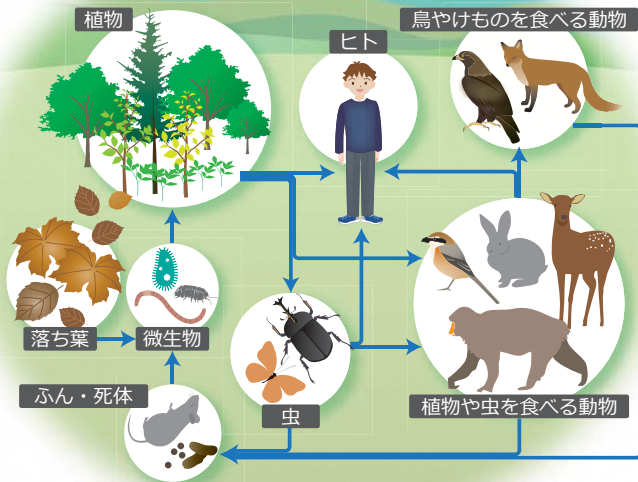
# ふじのくに 生物多様性地域戦略

[ 2018-2027 ]



生物多様性の大切さを理解し、力を合わせて  
生物多様性にめぐまれた理想郷“ふじのくに”に生きる

# 生物多様性とは

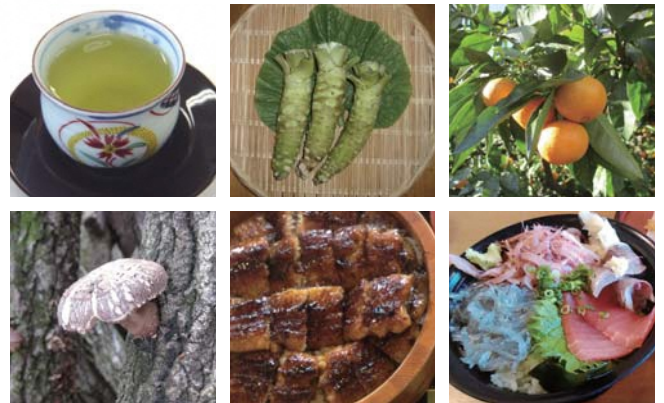


## ■ 生物多様性とは

- 多くの種類の生物がいて、それらが様々な形でつながりあっていることを「生物多様性」といいます。
- 生物多様性とは、単に生物の種類が多いだけでなく、「遺伝子の多様性」「種の多様性」「生態系の多様性」という3つの視点で捉えることができます。

## ■ 静岡県の特産物と生物多様性

- 本県はお茶やわさびをはじめとする特産物にめぐまれており、全国シェア1位のものも多くあります。
- 製紙や繊維等をはじめとする地場産業も盛んです。
- これらの産業は、その地域にあった生物多様性のめぐみを活用しつつ、先人たちの絶え間ない努力により発展してきました。



## ■ 生物多様性のめぐみ

- 人の生活は、生物多様性からもたらされる様々なめぐみによって支えられています。

有用な生物資源としてのめぐみ  
〈供給サービス〉



空気や水、木材、食材等のめぐみが、私たちの衣食住を支えています。

安全・安心な生活の基礎となるめぐみ  
〈調整サービス〉



自然災害や気候変動を抑え、安全・安心な生活が守られています。

豊かな文化の源となるめぐみ  
〈文化的サービス〉



人々の安らぎや精神的な支えになっています。

生命の成り立ちの基盤となるめぐみ  
〈基盤サービス〉



昆虫が受粉を助けたり、ミミズが良質な土をつくる等、他のめぐみが機能する基盤となります。

## ■ 歴史と固有性

- すべての生物がそれぞれに唯一の歴史を持っています。
- 長い地質学的な時間の上に、人間が誕生して自然に関わり合いを持つことで作りあげられてきた環境は、地域ごとに固有な生態系を生み出しました。
- このような「歴史と固有性」が、生物多様性の豊かさに関係しています。

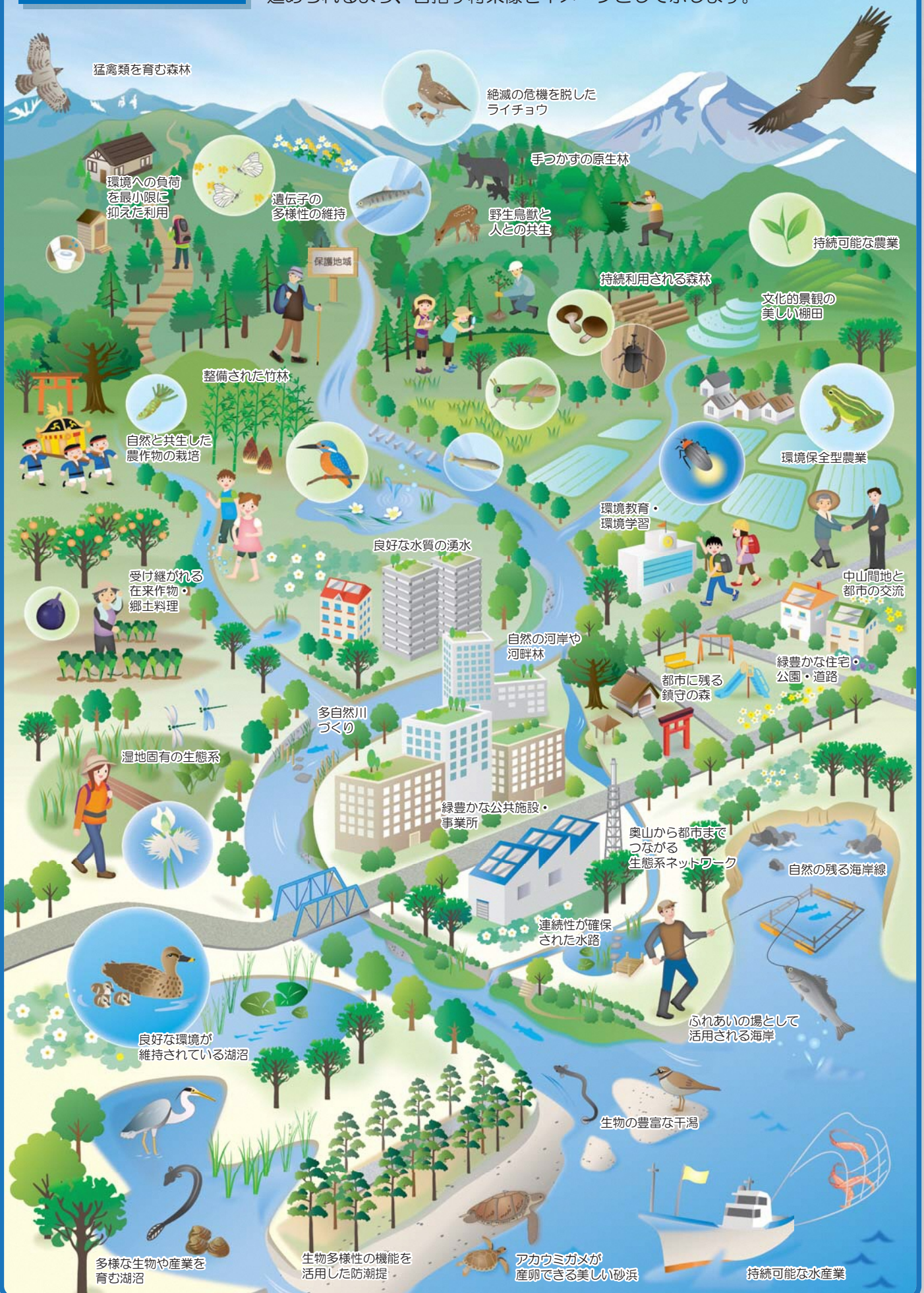


カケガワフキバッタは地球上で静岡県にしか生息していません。



# 目指す将来像

多様な主体が、長期的な視点で生物多様性に関する取組を進められるよう、目指す将来像をイメージとして示します。





# 生物多様性にめぐまれた“ふじのくに”をつくる

わたしたちの県土は、先人たちが自然と共生した生活を営む中で、大切に守られてきた「生物多様性のめぐみ」に溢れる場所で、自然景観と生活景観が織り成す「マジスティック・ガーデン」とでも呼ぶに相応しい荘厳さや雄大さを持っています。

このめぐまれた県土に、安全で豊かな生活を、100年後、1000年後も継承していくために、古くから日本人が育ててきた自然を畏敬する心をあらためて噛み締め、単に自然を護るというだけでなく、産業や文化との関わりを含めて、生物多様性の全貌を県民みんなで理解し、行動していく必要があります。

